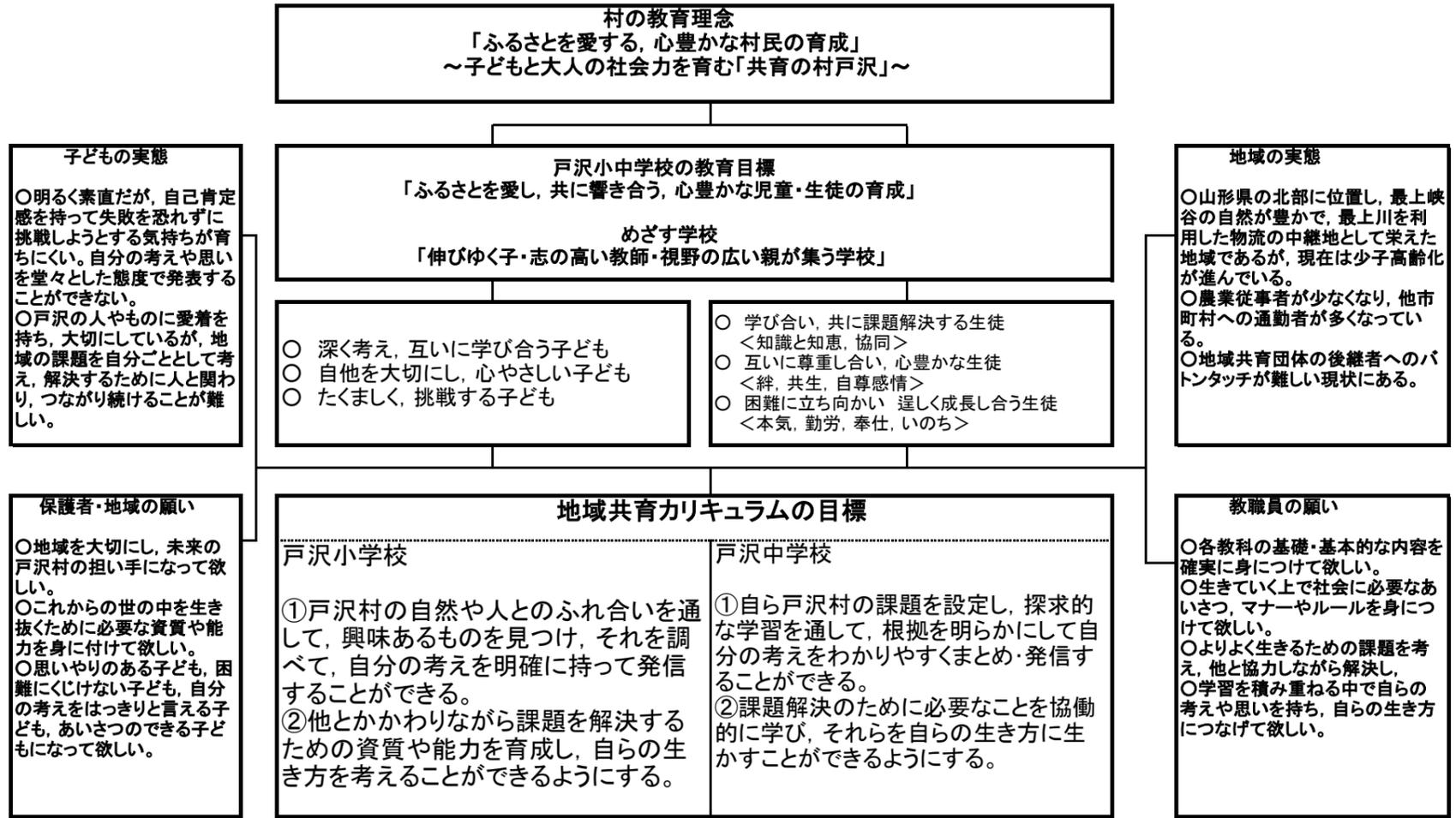


地域共育カリキュラム

平成31年度 戸沢小中学校 地域共育カリキュラム（総合的な学習の時間）全体計画



地域共育カリキュラムで育てたい力

○体験を通して自然や人や社会にかかわり、見つけた課題を自分事としてとらえ、仲間とともに主体的・協働的に解決しようとする意欲を育てる。
○課題解決のために、各教科で身に付けた知識や見方・考え方、技能を総合的に働かせ、粘り強く探究したことを発信させる。
○課題の探究を通して学ぶことの意味や自らの生活について考えを深め、学んだことを将来の生き方につなげて考えさせる。

○小学校で身につけた知識及び技能をもとに、新たな視点を持ち、協働的に解決しようとする意欲を育てる。
○教科横断的な学習や体験を生かして課題を解決し、根拠を明らかにしてまとめ・発信させる。
○探究的な見方・考え方を働かせ、持続可能な社会を実現するための行動の仕方や自己の生き方を考えさせる。

学年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
学習テーマ	地域で大切にしてきたもの	わたしたちと最上川 1/2成人になるわたし	地域農業	村づくり	知る	調べる	発信する
学習対象	自然・人・社会(歴史的建造物見学や伝承文化の体験) ・村内の巨木 ・戸沢・神田・古口・角川の歴史的建造物 ※生活科・社会科からの「うちの周りにあるもの」を既習・横断的な学習として活用。	自然・人 ・最上川 ・1/2成人になる自分 ※キャリア教育を含む	自然・人・社会 ・地域の産業やその取り組み(米作り・伝承野菜作り・工業) ・それに携わる人々 ※社会科での「米作り」単元を横断的な学習として活用。	人・社会 ・企業 ・議会 ・役所 ・その他の施設 ・関連機関 ・修学旅行で訪れた地域	環境・産業・歴史・福祉 ・観光・国際理解 ・地域の方の講話 ・最上川 ・神室少年自然の家 ・清流園	環境・産業・歴史・福祉 ・観光・国際理解 ・都市の企業 ・山形県内の大学・短大・専門学校等の教育機関 ・まごころ荘	環境・産業・歴史・福祉 ・観光・国際理解 ・戸沢村 ・協力企業
各学年の内容	・村内の巨木巡り ・戸沢・神田・古口・角川の歴史的建造物見学 ・伝承体験 ・門松作り ・「なしたんご」の意味を学ぶ。 ・社会「昔の物調べ」と重ねて「わら細工」を学ぶ。	・最上川の動植物 ・最上川の水環境維持に努めようとする人々の思い ・最上川の舟運や水害の歴史 ※4/27川開き参加のための「最上川舟唄」の練習や「モモカミゴミバスターズ」への参加(川下り)を導入して、課題作りに入る。 ・モモカミゴミバスターズ体験 ・1/2成人になる自分への成長や家族への思い、将来への展望。 ・サケの稚魚の放流	・地域の農業やその取り組み(米作り・伝承野菜作り・工業) ・それに携わる人々 ※角川での宿泊学習を総合の一環とし、学習内容に角川の伝承野菜や加工場の見学学習を取り入れ、6年生の学習につなげる。	・村づくりや村民の幸せを支える企業(ユニフォーム縫製会社・部品製造会社)や議会、村起こし隊の考え方や取り組み ・自分の課題を修学旅行で訪れた地域で事業所・役所・伝承野菜栽培農家・特産品栽培農家などを訪れて調べ、戸沢村との比較をする。 ・地域の人々がつながり支え合っていること	・地域の方の講話を聞いて村の現状を把握する。 ・モモカミゴミバスターズを通して最上川環境についての理解を深める。 ・神室少年自然の家で宿泊学習を行い、山歩きで自然体験をし、協力して野外炊飯を行う。 ・フィールドワークⅠで村の様子を知る。 ・上記の体験から課題設定を行い、中3の助言を受け、見直しを立てる。 ・清流園を訪問し、入園者とのふれあい活動を通して、村内の障害者福祉についての理解を深める。	・1年時に立てた課題についてフィールドワークⅡ(課題追究)を行い、調査する。 ・1年時に立てた課題に関連させて、都市の企業を訪問し課題解決の参考にさせる。 ・1年時に学んだことをもとに戸沢村についてパンフレット等により、修学旅行でPR活動を行う。 ・上級学校訪問では課題に関連した学校を訪問する。 ・まごころ荘訪問を行い、入所者とのふれあい活動を通して村内の高齢者福祉についての理解を深める。 ・中間発表を本番に近い形で行い、中学3年生からの助言を受け、来年度の方向性を定める。	・追究課題についてまとめを行うとともに、必要に応じてフィールドワークを行う。 ・追究課題の発表を全校生徒や村内協力者に向けて行う。 ・課題の追究を通して、自分と戸沢村との関わりについて振り返り、自分の生き方を考える。
発信対象とその時期	学級内の友達 小学校2年生(保護者) 1～2月	小学3年生(保護者) 1～2月	小学4年生(保護者) 1～2月	小学5年生 中学2年生(保護者) 1～2月	小学5年生 中学3年生(保護者) 11月	学級内で中間発表 小学6年生 中学3年生 2月	小中学生 地域指導者、議員(保護者)8月

学習活動
・地域の実態、生徒の実態を踏まえ探究課題を設定する。
・地域の人、素材を生かした学習活動を行う。
・それぞれの学年で学習成果を表現する場を年間計画に位置づける。
・年間1テーマでの取組を基本とする。

指導方法
・生徒の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。
・個に応じた指導の工夫を行う。
・体験活動を重視する。
・各教科等との関連を重視した指導を行う。
・言語により整理分析したり、まとめ・表現したりする学習を重視する。
・協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。

指導体制
・地域コーディネーターを介して地域指導者との打ち合わせを密にしながら進めていく。
・全校指導体制を組織する。
・運営委員会における校内の連絡調整と指導体制を確立する。
・ワークショップ研修を重視する。
・ICT機器及び地域指導者の整備・充実を図る。
・地域の教育資源をデータ化する。

学習の評価
・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。
・個人内評価を重視する。
・指導と評価の一体化を充実する。
・授業分析による学習指導の評価を重視する。
・期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。